連 載

――――第５回　土はやせていく――――2016.8.28

土は手を加えないとやせていきます

自然の土地では腐食に富む表土（腐葉土）があり、植物の生育を促しています。しかし、「花の季台」のように新しく開発された宅地では表土の保全をしないまま、整地されています。このような土は建築物を建てるには良い土ですが、養分や腐食を含まないので、生け垣の生育のためには改良（養分補給・腐葉土づくり）が必要です。日本の土は本来酸性か弱酸性ですが、特に開発された土地では酸性の土が多いといわれています。酸性の雨が降ると、なおさら酸性土になる傾向が強くなります。そのため、農家の田畑では石灰をまき中和させ土の改良をしています。

来年 3～4 月の強剪定のために土壌の改良と施肥をしておきましょう

ホームセンターなどでは腐葉土を販売していますが、剪定した枝葉をリサイクルした腐葉土を無料で入手できる所があります。毘沙門台団地近くの「植木せん定枝リサイクルセンター」（☎082-838-2346）です。大きめの丈夫なビニール袋とスコップを持参すると、一日１回 20ℓ缶 20 杯まで分けてもらえます（袋詰めはセルフサービス）。生育が悪く裾空き状態の生け垣の根元に腐葉土を敷き詰めると、山の樹木と同じ状態になり、養分を吸収しやすくなります。来年３～４月に強い剪定で生け垣の仕立て直しをする方は必ず実施してください。

■ワンポイントアドバイス■　剪定した枝葉で腐葉土を作ろう

庭木を剪定した際に出る枝葉を利用して、腐葉土を作ることもできます。剪定後の枝葉をナイロン袋に詰め一時保管しておいて枯らし、鶏糞を施すとき一緒に地中に埋め込みます。２～３カ月後には地中で腐葉土が出来ています（この作業を２～３年ごとに繰り返していく）。鶏糞は臭い対策が必要ですが、地中に埋め込むことで解決します。養分補給効果は１年間大丈夫。

〈施肥の方法〉　生け垣の木と木の間に 15～20cm ぐらいの穴を開け鶏糞(移植ゴテに一杯)と枯れ葉を一緒に入れ、十分に土をかぶせます。生け垣が根を張っていてスコップなどが入らない場合は鉄の棒等を突き刺し回転させ、アリ地獄のような穴を開けます。腐葉土と鶏糞を施すことで、酸性・アルカリ性の土が弱酸性に改良されると同時に、肥料の三要素である窒素・リン酸・カリも補給され、青々としたきれいな生け垣がいつまでも保たれます。

日照り続きでサツキ・ツツジが悲鳴を上げています!!　たっぷり水やりを!!

※参考資料「緑化管理者養成講座」